



何をどう支援する？

～URAから見た研究データ管理サービスの取組と課題～



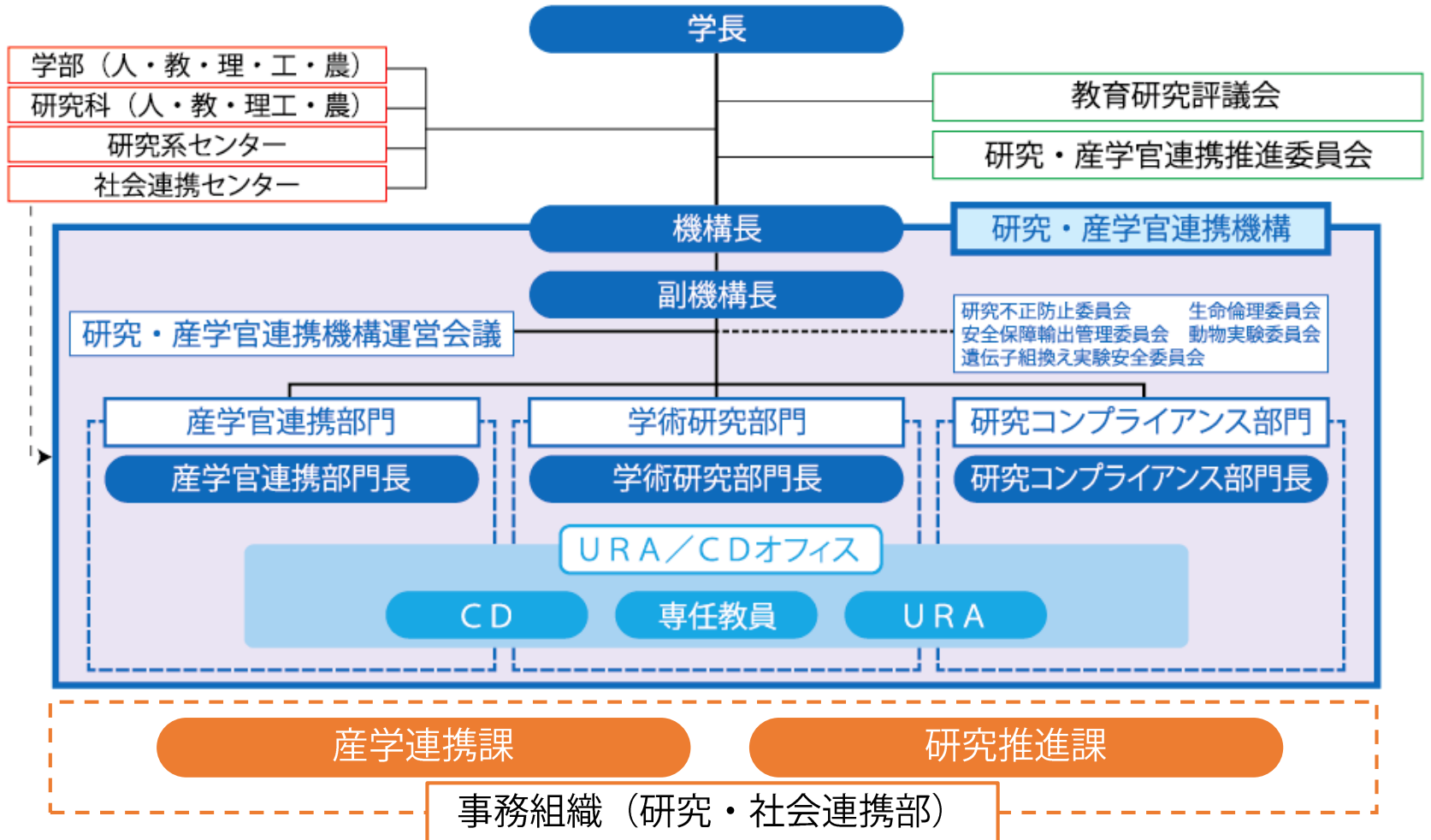
梶野顕明

茨城大学 研究・産学官連携機構 URA



茨城大学 研究・産学官連携機構

研究機能と産学官連携機能とを融合的に発展させ、大学の研究を社会へ積極的に繋げることを目的として2018年1月に発足





URAとは

“大学等組織全体を俯瞰しながら、学術的専門性を理解しつつ、自身の業務に関する専門性とセクターに偏らない能力を駆使して、多様な研究活動とそれを中心に派生する様々な業務に積極的かつ創造性をもって関わり、研究者あるいは研究グループの研究活動を活性化させ、組織全体の機能強化を支える業務に従事する人材”

令和2年3月「リサーチ・アドミニストレーターに係る質保証制度の構築に向けた調査研究」
成果報告書より

“大学等において、研究プロジェクトの企画・マネジメントや研究資金の調達・管理、研究成果の活用推進等を担い、学術研究やイノベーションの源泉となる知の創出に貢献”する専門人材のこと

「リサーチ・アドミニストレーターの認定制度の実施に向けた調査・検証」事業より
<https://ura-cert.w3.kanazawa-u.ac.jp/jigyo>



茨大URAの活動内容

研究戦略企画・推進

- 研究戦略企画・提言
- 研究IR（中目中計、法人評価対応など）
- 次期中目中計に向けた戦略立案支援
- 研究マネジメント支援

研究基盤形成

- URA訪問ディスカッション
- 学内研究推進プロジェクトの企画・運営
- 異分野連携（茨大100人論文）企画・運営
- 学内ファンドの制度設計・運営
- 研究関係のニュースレター全学配信
（研究助成ニュース、iRIC Letter）
- 研究環境改善のための企画

プレ・アワード

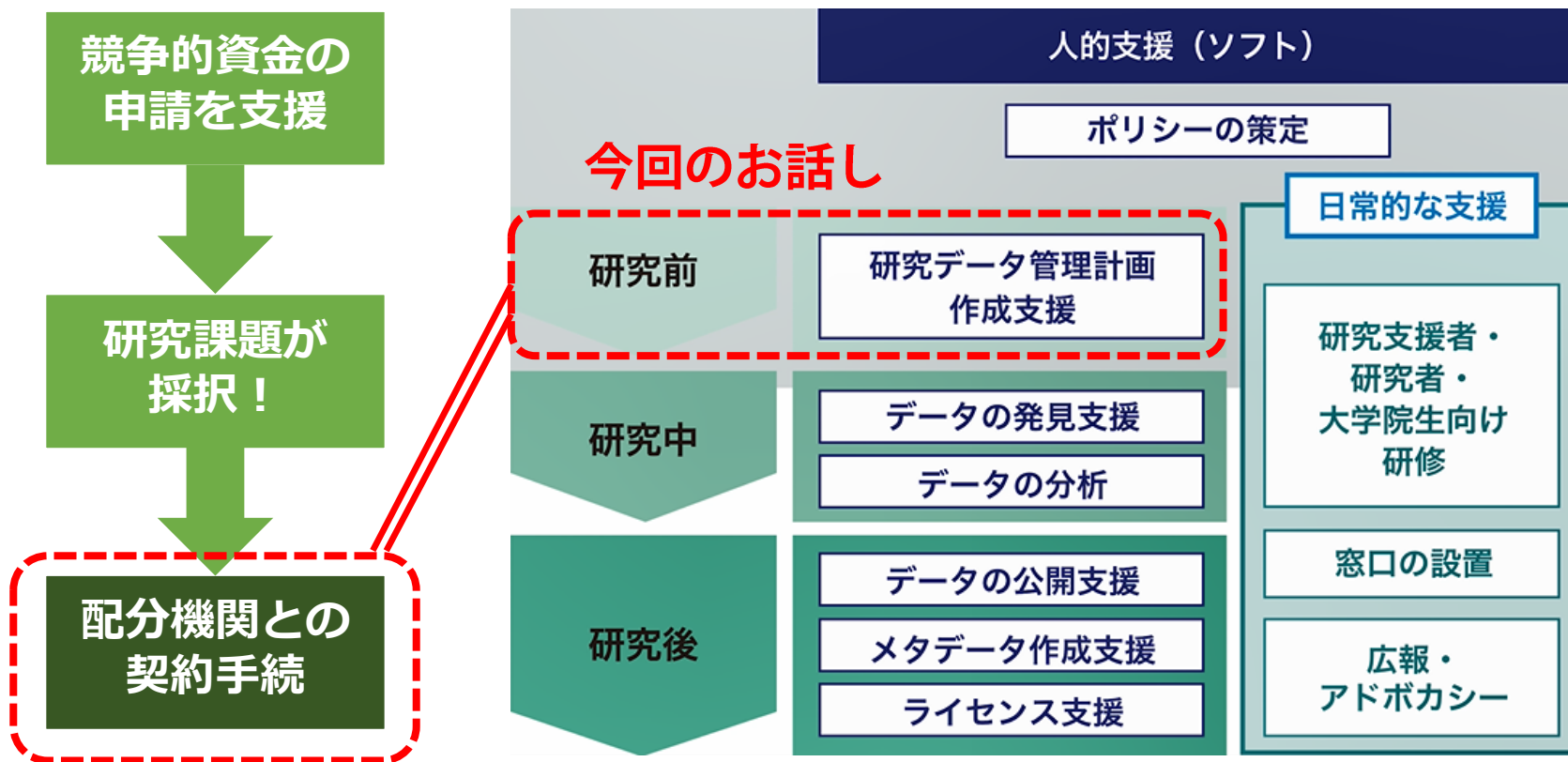
- 大型プロジェクトにかかる各種調整
- 各種補助金調査、外部資金獲得企画・立案
- 科研費説明会やセミナーの企画/実施
- 科研費申請書作成支援
- JSPS特別研究員申請書作成支援

産学官連携

- CDと協働した産学官連携コーディネート
- 企業との包括的共同研究
- 産学官連携プロジェクト提案
- マネジメント体制づくり



研究データ管理はURAに必要な知識！？



研究データ管理サービスの設計と実践_第1章：序論より

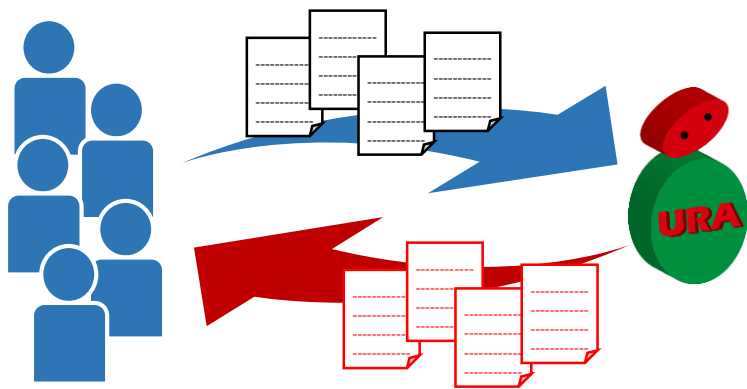


URAによる科研費申請支援サービスと データマネジメントプラン作成への対応

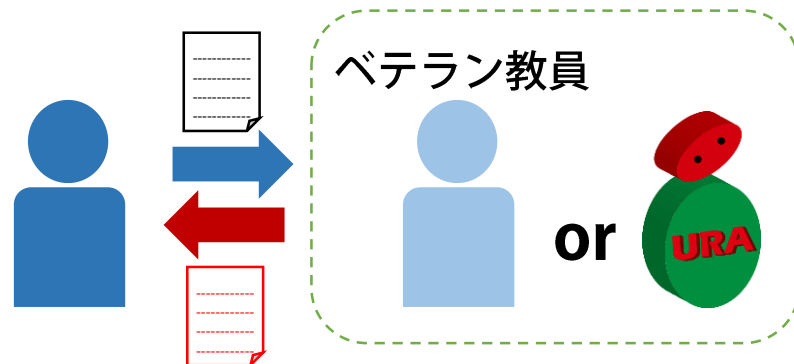


茨大URAの科研費申請支援サービス

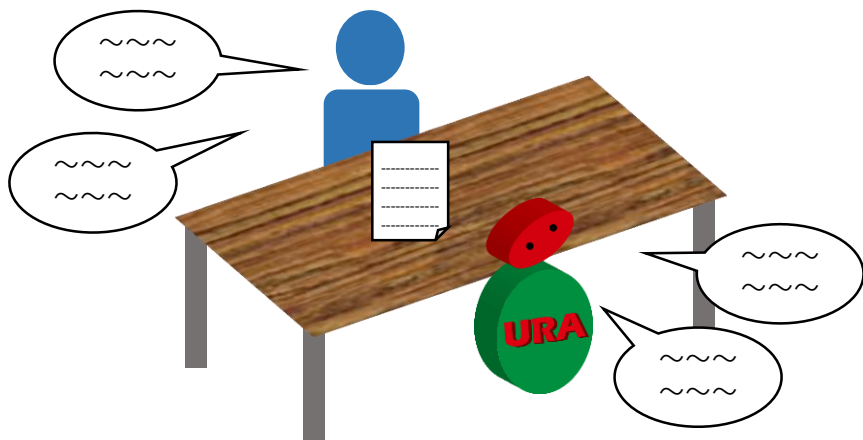
□ 申請書“全件”チェック



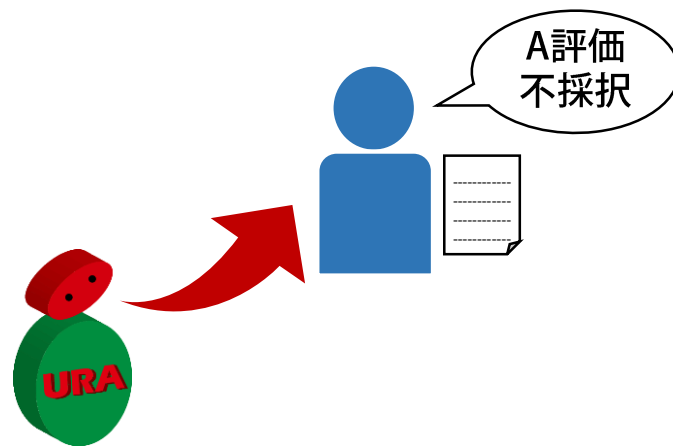
□ 助言者制度



□ 訪問ディスカッション

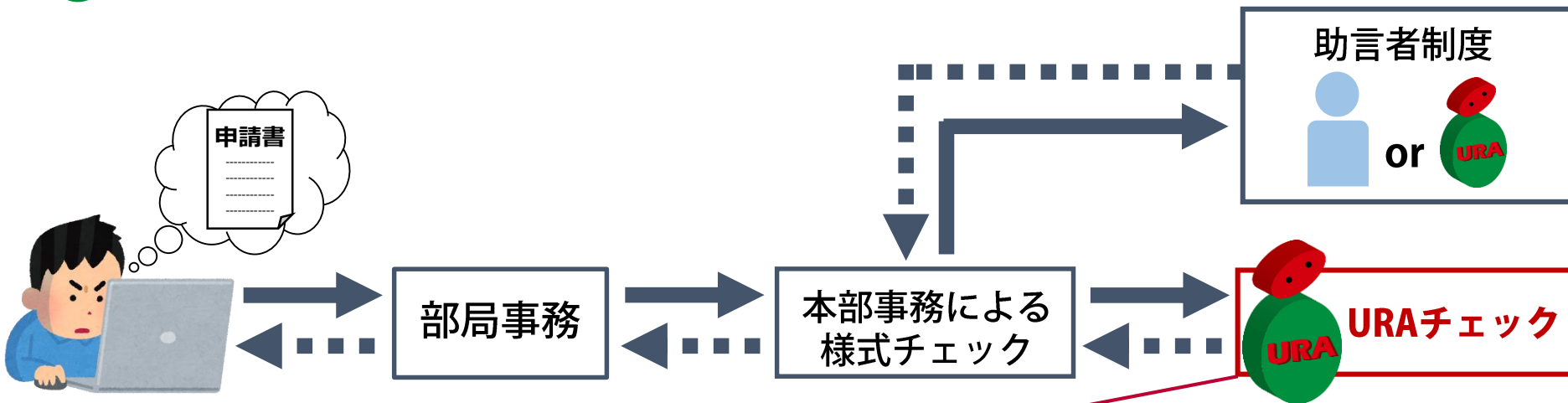


□ 再チャレンジ支援





科研費申請書チェック業務概要



チェックの深さは概ね3段階；

レベル1：てにをは、レイアウト

レベル2：文章表現や全体構成

レベル3：研究内容に踏み込んだ提言

□ 原則1件あたり2人で担当
(1st、2ndチェック制)

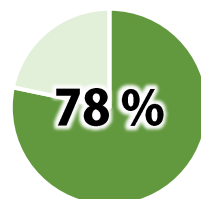
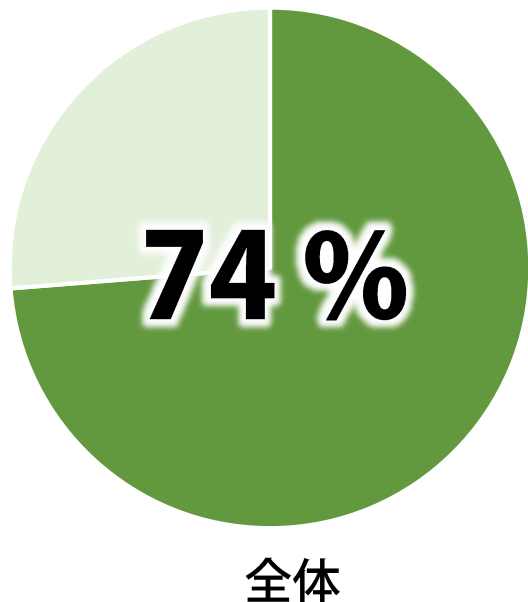
□ ① 申請書への直接書込み、
② 内容に関する「所見書」

□ 提案の採否は教員の判断に
委ねられることを明記

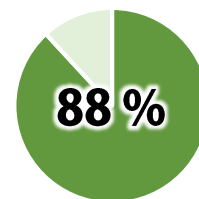


これまでの実績

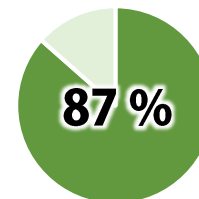
URAが申請書を“チェック”したことがある教員の割合



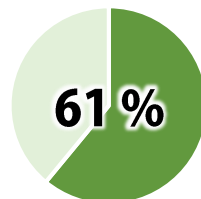
理学部



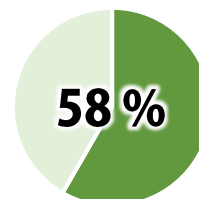
農学部



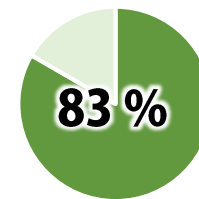
工学部



人文社会科学部



教育学部



その他センター等

URAが4年間で“チェック”した申請書の数

述べ **1175 件** : 学内全申請数の **83 %**



科研費における新たなデータマネジメント

JSPS科研費「学術変革領域研究」公募要領 p.19

ケ) その他

- ・領域設定期間の2年度目に採択時の所見における指摘事項等を踏まえて改善が行われているかフォローアップを実施します。
- ・領域研究の進捗状況等を踏まえ、継続する計画研究の見直し等について、審査を経た上で手続を行うことが可能です。

・データマネジメントプラン (DMP) の提出について

研究データの管理・利活用に関しては、「第5期科学技術基本計画」(平成28(2016)年1月22日閣議決定)及び「統合イノベーション戦略2019」(令和元(2019)年6月21日閣議決定)等において、我が国の研究開発活動の自律性の確保と国際的なオープンサイエンスの推進の観点から、研究データの戦略的な保存・管理の取組とともに、研究成果のより幅広い活用が求められています。

このため、学術変革領域研究においては、採択された研究領域の領域代表者に対し、交付申請時に、当該研究領域における研究成果や研究データの保存・管理等に関するデータマネジメントプラン (DMP) の提出を求める予定です。

- ・学術変革領域研究においては、「新学術領域研究(研究領域提案型)」の終了研究領域を対象としている「終了研究領域の研究成果の取りまとめを行うための経費」の公募は行わない予定です。

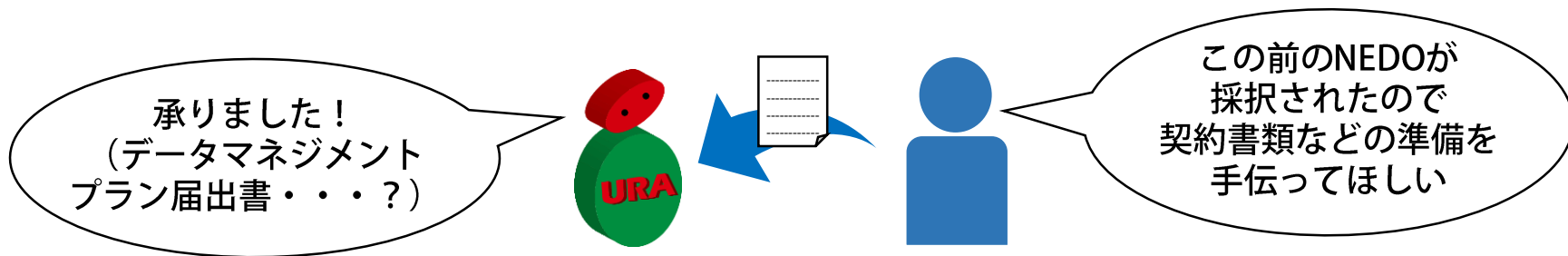
- ・学内の科研費説明会などでのアナウンス
- ・DMP作成支援のサービス強化(教員向けFD企画など)
→他の関連部署と素早く情報共有、連携できることがポイント?



競争的資金における データマネジメントプラン作成支援の実例



ある教員からの相談



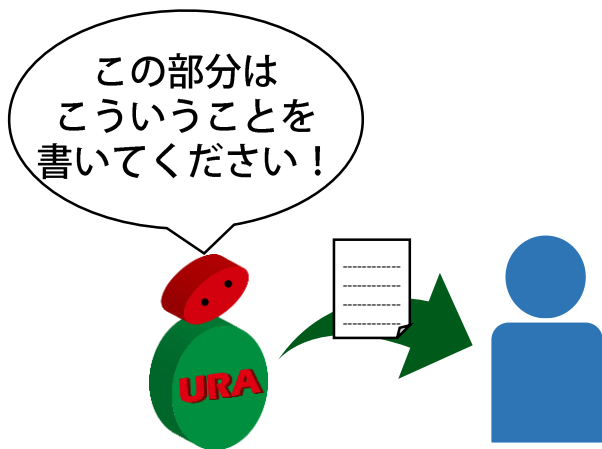
調べてみると・・・

- 経産省「委託研究開発におけるデータマネジメントに関する運用ガイドライン」(H29.12)
[https://www.nedo.go.jp/jyuhoukoukai/other CA 00003.html](https://www.nedo.go.jp/jyuhoukoukai/other_CA_00003.html)
- NEDOプロジェクトにおけるDMPに係る基本方針 (H30.3)
<https://www.nedo.go.jp/content/100875879.pdf>
- 他のファンディングエージェンシもほぼ同時期に運用開始



URAとして実際に対応したこと

- 「知財」および「データ管理」について、プロジェクト関係者との間で契約前の調整と合意形成をサポート
 - ◆ 知財及びデータの取り扱いについての合意書の作成
 - ◆ 知財運営委員会の設置と運営規則の作成
- DMPについては基本的なところから教員にレクチャー
 - ◆ DMPが出てきた背景や、実際には何をすべきかについて解説
 - ◆ NEDOの様式やその他の記載例などを参考に、想定される研究データの公開レベルを教員と一緒に確認



データマネジメントプラン プロジェクト名：@@@@@の研究開発					
No.	データ名称	データの説明	管理者	分類	公開レベル
1	〇〇のシミュレーションデータ	〇〇の特性を予想するためのシミュレーションによって得られた〇〇データ	茨城大学	自主管理データ	PJ参加者以外の第三者にも提供・利活用予定
2	△△実証試験における@@観測データ	△△の実証試験において、@@センサによって取得された観測データ	株式会社 ●●	自主管理 ●●データ	PJ参加者間のみで共有・利活用予定

※イメージです



支援して感じた課題

- 省庁系競争的資金に加え、科研費もデータマネジメントプランについて提出義務化の流れ

→早急に学内周知が必要

- プラン作成よりも実際のデータ管理が大変かも

→プロジェクトが大きくなると、ステークホルダも増えて、管理するデータは増加・複雑化・多層化する

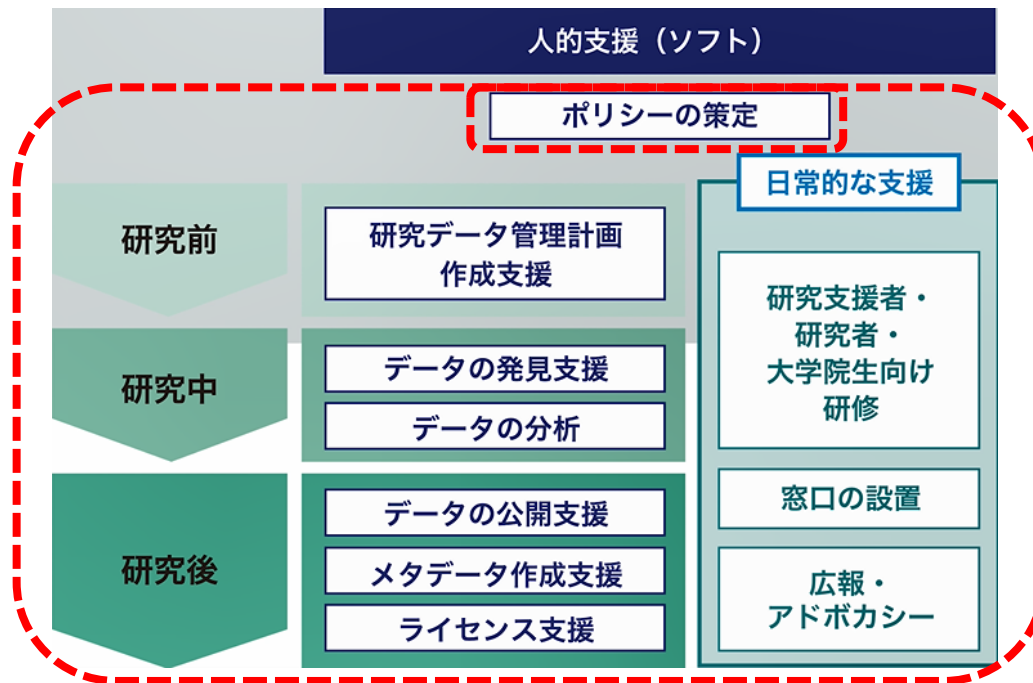
→マネジメントやキュレーションを行う専属の人材が必須？



大学としての研究データ管理に関する議論へ

昨年度、他大学の先行事例を参考にオープンサイエンスに向けた研究データ公開の学内ポリシー・ガイドライン作成のためのワーキンググループ結成

→情報関係部署、図書館、URAの各スタッフを中心とする少人数のメンバーで構成



【再掲】 <http://id.nii.ac.jp/1458/00000107/>



研究データ管理を支える人材に関する私見

- 求められる素養とは？
 - ◆ 研究ならびに研究データがわかる人
 - ◆ 学内のセクターを超えて会話が出来る人
 - ◆ 一定レベルの情報リテラシーがある人
 - ◆ 整理整頓が上手な人
- URAは何ができるか？強みは何か？
 - ◆ 「研究がわかる」人材が多い
 - ◆ 学内の多様な「セクター間連携」がしやすい職種である
 - ◆ いかに教員の手間を増やさずに下記を整合させるか？

研究データマネジメントのレベル

大学組織としての
研究データ管理
支援サービス

研究プロジェクト
マネジメントの
一環として行う
研究データ管理

日常的な研究活動
の一部として
研究者が行う
研究データ管理